

坂井市が目指す脱炭素ビジョン

「坂井市脱炭素ロードマップ」を策定するにあたり、地域の現状と地域の課題を整理し、地域課題と脱炭素を同時解決するための方策について検討しました。その上で、「2050年の坂井市のあるべき姿」である「坂井市脱炭素ビジョン」を設定しました。

地域の現状

- 海・川・里・山のすべてを有し、農業・林業・水産業・製造業などあらゆる産業が存在する
- 東尋坊や丸岡城など観光地に恵まれている
- 鉄道やバス・タクシーなどの公共交通は存在するものの地域の移動手段はほとんど自家用車である
- 「内発的動機づけ」を主軸とした地域づくりや環境教育が行われている

地域の課題

- ◆ このままいけば2050年には61万6千トンの温室効果ガスが排出される
- ◆ 人口は2005年をピークに減少しており、少子高齢化による労働者不足が産業に影響を与えている
- ◆ 製造業が盛んな一方、エネルギー代金として215億円もの所得が域外に流出している
- ◆ 森林資源が地域内で活かされていない
- ◆ 公共交通の利用率が低い脆弱化のおそれがある

脱炭素による課題の同時解決

- ◆ 再生エネルギー導入・省エネ化等によって温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする
- ◆ エネルギーの自給自足によって、エネルギー代金の流出を食い止め、地域産業の利益率を向上させる
- ◆ 再生エネルギー導入によって地域内で資源を活用する
- ◆ 公共交通の次世代自動車化・充実化によって公共交通の課題と脱炭素を同時解決
- ◆ 災害時の再生エネルギー利用によるレジリエンス*の確保

*レジリエンス・・・災害時における強靱性、適応性、回復力のこと。

再生可能エネルギー導入方針

市の脱炭素には再生エネルギー導入が必要不可欠です。再生エネルギーの導入にあたっては、以下の3つを基本方針とします。

1. 海・川・里・山がもたらす坂井市の資源を活かした再生エネルギーを導入し、地域内で活用することでエネルギーの地産地消を目指す
2. 坂井市の豊かな自然や景観を損なうことなく、それぞれの場所に調和した適材適所の再生エネルギーを導入する
3. 市民や市事業者が再生エネルギーの活用について自ら学び、考え、導入していくことで、地域にとって最大限の利益をもたらす再生エネルギーを実現する

温室効果ガスとは

温室効果ガスは、二酸化炭素（CO₂）をはじめとし、メタン（CH₄）、一酸化二窒素（N₂O）、代替フロン等4ガス* など、地球温暖化の原因となる物質のことです。

*代替フロン等4ガス：HFCs（ハイドロフルオロカーボン類）、PFCs（パーフルオロカーボン類）、SF₆（六フッ化硫黄）、NF₃（三フッ化窒素）

2050年 坂井市脱炭素ビジョン

海・川・里・山 すべての資源が活用され、地域に循環する脱炭素戦略



*スマート農業・漁業・・・ICTを活用した農業・漁業のこと
*営農型太陽光発電・・・田畑の上に太陽光発電を設置し、電力を得ながら農業も行う仕組みのこと

再生可能エネルギーとは

太陽光・風力・地熱・中小水力・バイオマス等の地球資源の一部や自然界に常に存在するエネルギーのことです。再生可能エネルギーは、枯渇せず繰り返し利用することができ、発電時にCO₂を排出しない（増加させない）ため、地球温暖化の抑制に役立つエネルギーです。

再生可能エネルギーの例

